

2011年8月25日

2011年 東京大学教養学部 夏学期
全学ゼミナール「地球温暖化と経済学」講義感想文
(履修登録者 13名、合格者 9名、感想提出者 7名)

山口 光恒

1、文科1類1年

地球温暖化についてはエコカー補助金や鳩山前首相の1990年比-25%を目指すとの発言などで興味を持っていたが、現実に削減することがいかに難しいものかがよくわかった。温室効果ガス削減のための政策のみならず国際的に削減量がどのように決められていたのかが非常に面白かった。

2、文科2類1年

1学期先生の講義を受け、経済学が理論上のものにとどまらず実際に有効に活用されているのを見て、経済を学ぶ意義を感じました。温暖化という問題を今まで考えたこともなかった経済学的視点からとらえるのはとても興味深く、新たな視点を身につけられたように感じます。経済学部に進学し、温暖化問題にとどまらず様々な問題を経済学的視点から捉えていきたいと思います。興味を持てる面白い講義をどうもありがとうございました。2学期もよろしくお祈りします。

3、文科2類1年

この講義で扱う内容は教養科目の経済で習う内容に比べて発展的であり、一年生で経済の知識が不十分な自分にとってはとても刺激となる内容であった。この講義を通じて、経済学的に分析することの面白さと重要性を感じたように思う。しかし、それだけでなく、理論上の経済学的な分析によって上手くいくはずの政策が政治的な要因などによっていかに現実では上手くいかないかということも知ることができたように思う。このように経済学的な見方の重要性とともにその限界を知る、すなわち経済学的な見方だけでは不十分であるということをつかんだように感じる。

以上のようなことや、国際会議での議論の様子を聞く中で、さまざまに提供される情報に対してクリティカルシンキングを行うことの大切さが伝わったように思う。

このようにこの講義を通じて、新しい見方、考え方を得られたため、この講義を受講してよかったと思う。

4、 文科2類1年

授業全体を振り返ってみると、地球温暖化を扱った授業の後半が特に理解とともに興味が深まった気がする。京都会議のビデオを見ることはできなかったけれども、山口先生が国際会議においてどれほどもめているかを話してくださったが、それぞれの国の利益がぶつかりあうとなかなか温暖化対策という「共通の責任」を果たしていくのは難しいとわかった。しかし、難しいからと言ってあきらめてはならず、早急の問題を解決していく努力を続けていく必要があると感じた。この講義を通して、地球温暖化と経済学という観点から教養を身に付けることができたのはよかったと思う。山口先生ありがとうございました。

5、 文科2類1年

駒場の教養課程ではあまり専門的な講義がないため物足りなく感じていましたが、この講義に関しては地球温暖化についてかなり踏み込んだ勉強ができたので、数少ない有意義な講義を受けることができたというのが夏学期を終えての率直な感想です。もともと環境問題には興味があり、また経済学部を志望しているので、自分にとってこの講義は今後の進路を考える上でも重要なものになったと思っています。正直なところ講義内容はかなり難しく感じましたが、このレポートを作成する過程である程度は自分なりに理解を深めることができたと思います。冬学期もよろしくお願いします。

6、 文科2類1年

地球温暖化の問題はいままでも頻繁に耳にする問題でしたが、経済学を使った理論的な考え方や、実際の国際的な交渉についての話を授業で聴いて、この問題について、単に温室効果ガスの排出量を減らすことだけを考えればよいのではなく、先進国と開発途上国のことや、現在の世代と未来の世代のことなど、さまざまなことを考えなければならない複雑な問題であることを知り、この問題にとっても興味を持ちました。夏学期の間、授業を聞いて、とても勉強になりました。冬学期もよろしくお願いします。

7、 理科1類2年

環境政策として政府主導の直接規制から経済的手法（排出権取引、環境税、補助金など）があって、それぞれを評価していくというところが特に印象に残っています。政策の評価の基準も初めて知ったし、費用便益曲線を用いて経済的手法の理論を考えるというのがとても新鮮でした。京都議定書をめぐる議論やその内容の解説から、排出削減をめぐる動きがきわめて政治的なものであることを感じさせられました。

そして、山口先生が授業の前や途中で話してくださる、自身の体験談や脱線話に毎回楽しませてもらいました。